



平成23年11月11日

各 位

三重県四日市市日永二丁目3番3号
アップルインターナショナル株式会社
代表取締役社長 埴原 明彦
(コード番号：2788 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部長 近藤 則明
TEL (059) 347-3515

平成23年12月期通期業績予想ならびに 営業外費用の発生に関するお知らせ

当社グループでは、平成23年12月期第3四半期連結累計期間において、下記のとおり営業外費用を計上することになりました。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年2月18日付で当社が公表いたしました平成23年12月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

記

I. 業績予想の修正について

1. 平成23年12月期（平成23年1月1日～平成23年12月31日）業績予想数値の修正

【連結】

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純損失 (百万円)	1株当たり 当期純損失 (円)
前回発表予想 (A)	33,823	820	623	159	1,275.94
今回修正予想 (B)	28,789	97	△359	△757	△6,077.77
増減額 (B-A)	△5,033	△722	△982	△916	—
増減率 (%)	△14.9	△88.1	—	—	—
(ご参考) 平成22年12月期	34,376	498	184	△1,604	△12,872.41

2. 修正理由

当社グループの中国での新車販売事業については、拡大する自動車市場を背景に業績は、今後も順調に推移すると予想しております。

しかし、日本での中古車輸出事業については、東日本大震災以降、サプライチェーンの寸断、為替相場の更なる円高進行などの影響で売上高が大きく減少することにより、収益が圧迫されると予想しております。

さらに、今後も為替相場は円高に進行していくことが予想されることから、売掛金の回収予定が当初の予定より大幅に遅延すると予想されるため、今後の回収の見込みに対するリスクの積み増しを考慮いたしました。

今後の世界経済も引き続き円高基調で推移することが予想されることから、前事業年度より為替相場に左右されにくい事業体を目指し、中長期的な取り組みとして、三国間取引を試みておりますが、現状としては収益に与える影響は僅少なものとなっております。

結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は予想を大きく下回る見込みとなりました。

Ⅱ. 営業外費用の計上について

為替差損の発生

為替相場の急激な変動に伴い為替差損 222 百万円（単体決算では、169 百万円）を営業外費用に計上しております。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上